

## ネットワークアーキテクチャに関する調査研究会（第6回） 議事要旨

- 1 開催日時 平成19年5月22日（火） 10時30分～12時30分
- 2 開催場所 三田共用会議所4階 第4特別会議室
- 3 出席者

（構成員）＜五十音順、敬称略＞

青山友紀、五十川洋一、岩下直行、岩浪剛太、岡本芳郎、  
冲中秀夫、川人光男、後藤幹雄（代理：美和晃）小松秀重、下條真司、  
杉本晴重、竹田義行、竹村哲夫、津田俊隆、土井美和子、徳田英幸（座  
長）、中尾彰宏、花澤隆、藤幡正樹、藤原洋、松田元男、三膳孝通、弓  
削哲也（以上、23名）

（総務省）

森清（総合通信基盤局長）、桜井俊（電気通信事業部長）、渡辺克也（電  
気通信技術システム課長）、田原康生（技術政策課研究推進室長）、荻原  
直彦（電気通信技術システム課課長補佐）、中里学（技術政策課研究推  
進室課長補佐）

- 4 議事  
（1）プレゼンテーション  
（2）その他

### 5 議事要旨

【プレゼンテーション】

- 岩浪構成員より、「ユーザ視点による新世代ネットワークへの期待」（資料6-3）に基づき説明。
- 川人構成員より、「ネットワークアーキテクチャに関する調査研究会」（資料6-4）に基づき説明。
- 岩下構成員より、「金融業界にとっての次世代の情報通信ネットワーク-ネットワークを利用するサービス提供者の立場から-」（資料6-2）に基づき説明。
- 自由討論（下記参照）

### 6 次回の研究会について

6月上旬の開催を予定しており、詳細については後日事務局より連絡する旨確認。

【「プレゼンテーション」後の自由討論における主な発言】

- 岩下構成員のプレゼンテーションの最後のページにあるシナリオ1をみると、岩下構成員はもっとユーザ主導で行うべきとお考えかと思うが、ネットワークからすると、ネットワークの複雑化に伴うコストをユーザに負担してもらわなければならないのではないか。それをユーザに見せていくことが必要となるのではないか。
- ユーザを認証する機能は、事業者ではなくネットワーク基盤の方に持たせた方がいいかと思う。認証をネットワーク基盤の機能としてどのように取り入れていくのかは課題である。リバティアーライアンスでの検討では、ユーザの情報（需要、足跡）はユーザのものであり、ユーザの意向でどのようにも変えられるとのことであった。サービス提供者側でユーザ情報を扱うというのは限界があり、ここだけはネットワークに期待したい。

- 世の中はシナリオ1で進んでいるが、セキュリティはコストがかかりシナリオ1では無理だと思う。ユーザはお金を払いたくないがインターネットはセキュアに使用したい。このまま進んでいってしまい、お金はかかる上にセキュアでもないというものにならないよう、この流れを変えていかなければならない。
- 岩浪構成員のプレゼンテーションの18ページにあるように、日本発のブログが非常に多いが、それは何故だろうか。また、岩下構成員は銀行の中でも非常に先進的な方だと感じるが、一般の銀行員はここで挙げられているシナリオ1やシナリオ2についてどのように捉えているのだろうか。
- 理由として、日本において安価で定額な高速なネットワークを簡単に利用できる環境が整備されていることが考えられると思う。二つ目の理由として、日本人は読み書きがしっかりしているということがあるのではないか。三つ目の理由としては、日本人は他人とのコミュニケーションをとるスキルが高いのではないかと想像している。
- 一般の銀行員は、インターネットがこんなにも進展したことにやや戸惑っていると思う。銀行の技術者は、現状のネットワークがずっと変わらないということ的前提に10年先のシステム開発を考えてきた。ネットワークがどんどん変わっていくという認識はないと思う。
- オープンでセキュアな環境についての論議に進んでいると思うが、コストの問題について、誰がリスクを負うかを考えておかないと方向が定まらないと思う。例えばシナリオ1は、金融機関内で実施出来るだろうが、シナリオ2では、金融機関だけではリスクを負えず、保険会社に負ってもらうことになるかもしれない。その場合のプレミアムどうするのかなども考えなければならぬのではないか。
- ネットワークを使っているエンドユーザには、iPodなどによるダウンロード型のビジネスモデルの出現により、パッケージではなくデータのダウンロードに対してその対価を払うという価値観が浸透してきている。いままでパッケージで提供されていたようなサービスが、セキュアにダウンロードされるということに対して、対価を払ってもいいという価値観が広まれば、ユーザがセキュリティに関するコストを負担するということがコンセンサスがとれるのではないか。
- コストについては、然るべきコストを負担する価値・必要性を感じれば、ユーザも支払いを行うと思う。セキュリティについてもユーザが必要性を感じればおのずと支払っていただけることになるので、心配はしていない。ただ、ネットワークがどこまで使い方に関わるべきなのかということが気になる。金融分野を例にとると、銀行間のデータ、銀行とユーザの間のデータ、ユーザとユーザのデータなど、ネットワークは何処まで知るべきなのか。ネットワークがユーザの情報を知ってしまうことはセキュリティ的にはよくない。しかし、全く知らないとサービスを提供できない。どこまで知るべきかというイメージを考えていきたい。
- ユーザは自分の情報を出してでも利便性を得たい、もっと発言したいと思う際、そのセキュリティ（信憑性）を証明する対象は自治体等の公的な機関であって欲しいと考えているようである。情報の信憑性を証明する者がいれば、ネットワークはユーザからの情報の中身を詳しく知らなくてもよいと考えられる。
- 知るべき人が知る、知らない人は知らないままで、結果だけ信用できる人から聞くというかたちがよいだろう。しかし、知りたくないのに知ってしまう、あとから知らなければならなくなった場合など、世の中の状況や、個人のニーズに応えられるようにするのが、ネットワークやサービスプロバイダの課題ではないかと考える。
- 脳内の情報を脳から取り出し、他人が読み出せるようになったのは最近である。それに関する安全性は生命倫理的な問題として扱われている。脊髄に損傷を負った人が脳情報を取り出すことにより運動再建ができる場合は、リスクよりもメリットが大きく、受け入れられる傾向にある。しかし、一般の人が自分が意識しないことまで読み出されてしまうことを受け入れられるかどうかという点について、生命倫理の研究団体をつくり世の中に問う段階にあり、我々の分野は、ここで議論されて

いる内容に比べ、まだ初歩的な段階であると理解している。

- 岩浪構成員のプレゼンテーションで、ブログのうち37%が日本にあるというデータについて、サービスを提供する側と受ける側という二極化した印象を受けすぎているのではないか。全ての人々がそれぞれのブログを見るわけではなく、家族内だけの小さいコミュニティや、大きなコミュニティなどいろいろなコミュニティが、それぞれのコミュニティ内だけで見ていることもあるのではないか。目に見える小さなコミュニティであれば自分の情報を出してもよいが、もっと大きな、目に見えないコミュニティに対しては同じように情報は出したくない。どこまで自分の情報をネットワークに出していくかを、うまくコントロールできるような仕組みを考えていかないと誰も使ってくれない物になってしまうのではないか。
- 岩浪構成員のプレゼンテーションのデータについて、日本のブログ利用率が高いのは、日本の若者が携帯を用いてSNSなどを利用しているからではないかと推測している。日本は時間をもてあます低年齢層が携帯電話を保有している率が高いことが起因しているのではないか。ブログ利用者の内訳について、もう少し解析してみると面白いのではないか。この様な視点から、ネットワークをつくる側はユーザの要件を知る仕組みを用意する等、ネットワークに対するユーザの要件サービスという点について考えていく必要があるのではないか。
- 日本人は新しい機能をどんどん取り入れた端末を使用している。しかし、国際競争力という点では、世界最高峰の技術を持った端末があるにも関わらず、国際競争力は比例していない。昔は機能の向上と国際競争力は比例していたが、現在は違う。この点をよく考えて日本のプレゼンスを高めていかなければならない。
- 日本のアニメや、マンガなどのサブカルチャー分野においては、日本は和みというカルチャーがあり、ハリウッドのように資金が集まりにくいのが、資金を集めることができれば、日本のプレゼンスを高めて行くことが可能であると思う。

(以上)